

## 第39回IBAFワールドカップ(2011/パナマ)

10月9日 日本2勝5敗  
 レモン カンテラ(アグアドゥルセ)-観衆500名 試合時間3:03

	1	2	3	4	5	6	7	8	9				計
日本	1	0	0	1	0	2	0	2	3				9
ギリシャ	1	1	0	0	0	0	0	2	0				4

バッテリー) 日本: 十亀、○海田、小高、濱野-松田、中野  
 フェルトリコ: ●シカラス、カルカテロス-シアンナカホロス

本塁打) アレクサンドロス(8回小高)  
 三塁打) 日本: 北道、林  
 二塁打) 日本: 小手川、中野、小林

	守備	打数	安打	打点
北道	RF)	4	2	1
的場	H	0	0	1
池邊	RF	0	0	0
川端	LF)	5	1	1
小手川	CF)	5	1	1
林	DH)	5	2	0
多幡	3B)	2	1	1
小林	1B)	5	1	0
川戸	SS)	2	0	0
安達	H-SS	3	1	1
松田	C)	2	1	1
中野	C	1	1	0
横山	2B)	2	0	0
坂上	H-2B	1	1	2
		37	12	9

ギリシャ戦については予備知識無く臨んだが、全員アメリカ人のチームであった。日本先発の十亀は立ち上がりを攻められ1回、2回と三四球と5安打で2失点した。打線の方は初回到小手川の適時2塁打で1点先制したもののAA経験のあるギリシャ先発投手の150キロ近い速球についてゆけなかった。やっと1点ビハインドで迎えた4回に松田の2塁打で同点に追いつき、疲れが見えた6回に3安打を集中し坂上の適時打で逆転に成功した。その後2点を追加したが、8回裏に好投の海田に代わりセットアップで出た小高が四球で出した走者をおいて6番打者に右中間に一発を浴び2点差に迫られた。9回ダメ押しの3点を取り、最後は濱野で逃げ切ることができた。